

資料 4

3 才後半～4 才前半へ ―自制心の芽生え―

1・「2 次元的調整」の獲得

- ① 2 つの 2 次元を「～シナガラ～スル」という具合に新しい一つの活動にまとめあげて、自ら励んで続けることができるようになる。

みんなと一緒に、保育者の手本があつたり励ましがあると、自分で自分を励ますことができて頑張る。

全身活動のレベル

ケンケン・・・片足をあげる―おろすの 2 次元ができ、一方の足で進む―とまるの 2 次元

ウサギ跳び・・・中腰で前に跳ぶ、手を頭にあてる

- ② あらかじめ意図をもって左右の手で別々の操作をしながら目的を達成していく

手の働きのレベル

踏切りカンカン・・・手を前に出して左右の手を交互に開閉させる

はさみを使う・・・片手ではさみを使いながらもう一方の手を使って厚紙にかいた形をきりぬく

金槌打ち・・・片手で釘をもつてもう一方の手で金槌をもつて打ち込む

- ③ 言語による活動の 2 次元的調整がこれまで以上にできはじめる。

「大きいまるをかいて、今度は小さいまるをかいて！」と言葉で言われるだけでそれがかかる。

○と□の区別がつく・・・三角のような鋭角をかくことにも挑戦をはじめる。

紐を結ぶ・・・両手をつかって結ぶ

- ④ ジブンの周りには机や段ボール、ソファーなどをならべたり、それらを組み合わせたりして船や自動車をつくり、中に荷物をのせたりして言葉を使って渡したり、受け取ったり、乗ったり、降りたりしてあくことなくごっこ遊びを展開する。

- ⑤ 家族の絵、ともだちの絵を何をしているところか説明しながらつぎつぎとかき、各々区別がつくような調整を自分でしはじめる。

2・自制心の形成

- ① 2 次元可逆操作が「～シナガラ～スル」という活動のスタイルで身についてくると内面的には二つの方向に注意を向けて、それを一つの活動にまとめあげていく注意のひろがりや深さ・粘り強さなどが備わる。これまで充実した自我がさらに充実していくための不可欠なこととして、自我が自らの努力を自励し制御しはじめる。

- ◎ 興味や自分の必要にもとづいた並列的な 2 次元可逆操作が基本になって「～シナガラ～スル」という活動のスタイルが展開していく。これが基本にありながらもそのような自制心にもとづく活動が量的に増大し、経験が蓄積されてくると、過去の経験を活かし、あるいは先のやりかたをいっそう自励的に修正して、困難な課題にさらに粘り強く挑戦

しようとしはじめる。

- ◎ 多くの活動を通じて「～シナガラ～スル」から「～ケレドモ」「～ケレドモ」
「～ケレドモ」へと発展してきた自制心は、さらに次にいよいよ自己の内面を介して、
欲求をおさえて、系列的に二つの2次元の各々を場面に応じて結合させることをはじめ
める。「～ダケレドモ～スル」という活動のスタイルをもつ水準に達していく。

ex. 「さみしいけれどもお留守番する」

さみしいとさみしくないの2次元がわかっている。留守番をすることとしないことの2
次元もわかっている。しかも自らを介して「さみしいけれどもお留守番する」というよ
うに、いわば自らの欲求を自制して2次元の一方ともう一つの2次元の他方を交差させ
た内的結合をつくっている。

- ・「～ケレドモ」「～ケレドモ」と努力している姿に対して“何をぐずぐずしているん
ですか、こうでしょう”と気持ちをふみつぶしたり、先取りしてしまつては、粘り強さ
が育たない。存分に努力させ、努力していることを認めて、最後に「大きくなったら、
できるようになるんだよ」などと将来への期待を一緒に育てる。
- ・「～ダケレドモ～スル」も、結果だけを見てできた、できなかった、と評価されたのでは
自制する力への共有にならない。「さみしいけれどもお留守番をしてくれたのね、だけど
涙がでてきちゃったの、ありがとう、よく頑張るようになったね、お姉ちゃんになって
くれてお母さんはとってもうれしいよ」などと自制の過程に則してその努力をみとめ、
受け入れてあげる。

5 歳児の発達のため

資料 5

全体的な特徴

- ・ 2 次元可逆操作が並列操作から、自分を基軸にして、**中間項**をもつことによって、系列操作へすすみはじめる。
- ・ 概知の親しい世界から未知の世界へ、その狭いふちを辿り、気持ちをはずませて**第 3 の世界**へ徐々に進みはじめる。
- ・ 手許で密度高く操作を繰り返すことに熱中し、抑制された感情を場面の展開にともなうのびやかに発散させていく。人の**顔をよむ**。
- ・ ともだちとの連れ立ちや、幼い**意思統一をはかる**など、気持ちを揃える活動が展開される。斉唱ができてはじめる。

出会いのようす

- ・ 笑顔と目で来客を迎えつつ、**手はやりかけ**のことを一心不乱に**続けている**。
- ・ 保育園で訪問者がいても、訪問者を**受け入れつつも**、それに妨害されることなく、いましていること、**しなければならないことに集中しつづける**ことができる。

運動

- ・ 閉眼直立、開眼つま先立ち、**片足立ちが 10 秒**ほどできる。
- ・ 足組み、腕組み、指組みで**利き側**とかくれ利き側がきまる。
- ・ 20 センチの高さの紐を両足をそろえて跳び越える。**たち幅跳び**をする。
- ・ 山登りで**斜面、凸凹道**などを調子をとりながら**持続して歩く**。
- ・ スキップ、ギャロップ、片足ホップをする。
- ・ 静止ボールやころがってきた**ボールを蹴る**。
- ・ 足が地上から離れても動作の調整的制御をし、**補助輪のついた自転車にのる**。
- ・ 雲梯にぶらさがって、2・3 回前進する。吊り輪にぶらさがって跳ぶ。棒のぼりをする。
- ・ 草取りや**簡単な手伝い**をし、雑巾やタオルを**しばって使う**。虫とり網でバッタや蝶を捕まえる。
- ・ 道具の**3 点支持**が確立し、はさみで形をきりぬいたり、紐むすびをする。**箸**でまめをつまむ。紙ひこうきを折るなどの作業ができる。
- ・ 片手でボール投げなどの**方向制御ができてはじめる**。投げる・受けるの初期の構えとコントロールができてはじめる。

社会性・言語・自我

- ・ 起床、着脱、排泄、洗面などが一通りできる。布団の上げ下ろし、雑巾しぼり、拭き掃除などに参加し、簡単なことが**分担**できる。助けなしで床につき、行事の前日には**持ち物をたしかめ**たりして、**ひとりでねることができる**。おかあさんの喜ぶことをしたがる
- ・ 行った事のある店へ行って**買い物をしてくる**ことができる。自分の経験に基づいた手がかりを使って、**家から保育園までの道順を話す**。
- ・ 食事は**箸を使って**食べることが中心になる。

- ・ 指導者の指示にしたがって**団体行動**がとれる。友だちと手をつなぎ、社会的規制のつよいところでは**自己規制をつよめて行動をとり**、全体的にはまとまった行動がともにとれる。
- ・ 配置、配分、構成をふくむ、相手ひとりとの**ごっこあそび**が盛んになり、必要な道具を**選んだり、組み立てて**あそぶ。
- ・ じゃんけんの**ルール**、**交通信号がわかり始める**。すごろくやカルタに興味をもつ。
- ・ 読み聞かせの本の内容を想像的に辿ろうとする。
- ・ 「イマ」「ココ」「ジブンデ」を媒介に、活動的調整を重ねる。
- ・ 『いちばん』ということに関心をもちはじめ、「いちばん嬉しいこと、いちばんかなしいこと」など方向性だけを示した質問に、経験をもとにした自己限定をする。
- ・ 「チョットスキ」「チュウクライオオキイ」など**まんなか**が**わかりはじめる**。
- ・ **過去、現在、未来**のなかでは、未来をえらぶことが多くなる。
- ・ 「あのねえ、ええとね、それでね」などとたどたどしい文脈をつくって話そうとする。
- ・ 語彙は **2000 語**をこえ、話しことばの文の長さは平均 5 語になり、複文がふえてくる。

描画と手工

- ・ **菱形や曲線描写**ができ、交差、反転がない図形であれば描写ができ、対称刺激図形に対しては外への破れが芽生える。
- ・ 人物を**前、後ろ、横**の順でかけ、未完成の人物を対称に完成させることができる。
- ・ 家族をかきわけ親しい所へ行く線道がかけ、自由画でも画面分割がはじまる。
- ・ 逆さ文字などもあるが**文字で名前をかこうとし**、それを読みはじめる。
- ・ 手工も加工したものを組み合わせて構造化の芽生えがそなわり始め、**指と指を使って紐状のものを巻く、結ぶ、あやとり**などできはじまる。